



2023年12月20日

各 位

会 社 名 株式会社 高松コンストラクショングループ
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 高松 浩孝
(コード：1762、東証プライム市場)
問合せ先 執行役員グループ経営管理本部長 不破 徳彦
(TEL. 03-3455-8108)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2023年3月期を初年度とする3か年の中期経営計画「共創×2025」を策定し、効率的な成長投資を続けることで持続的な市場価値の向上を目的として、ROE向上、株主還元の一層の強化等に取り組んでいます。これらの内容については、当社ホームページ (<https://www.takamatsu-cg.co.jp/>) で公表しております。

東京証券取引所による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請を踏まえ、今般、中期経営計画「共創×2025」におけるPBR改善に向けた取り組み等の概要を、添付の通り、お知らせいたします。

以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

株式会社 高松コンストラクショングループ 証券コード：1762

2023年12月20日

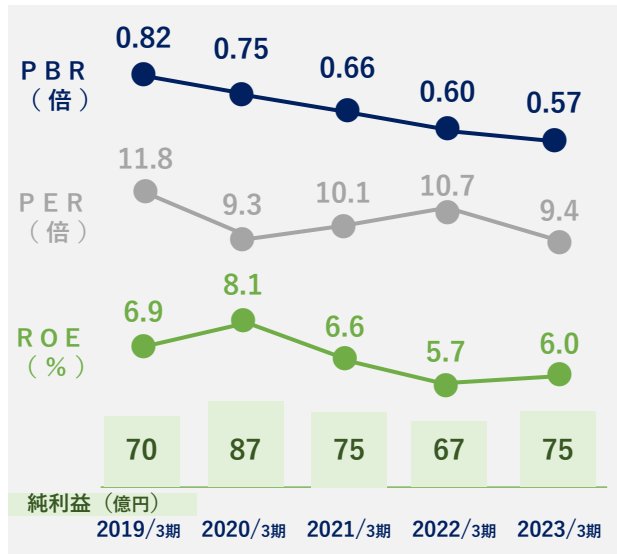
現状（低PBRの要因）

目指すべき企業価値が実現できておらず、当社グループのPBRは1倍を大きく下回っている

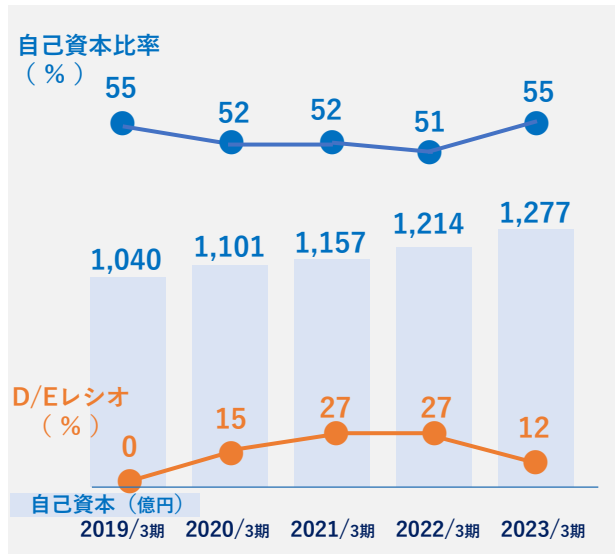
低PBRの要因

- 自己資本は財務健全性のため積み上がるも、収益伸長は不十分でROE水準は2023年3月期6.0%と低位な水準
- バリューチェーンは相対的に収益性が低い「建築請負」に集中しており、新事業領域創出を開始させるも途上
- ゼネコン業界が成長産業と見做されておらず株式市場からの期待値が低い
(23年3月期のPERは1株利益が12%増加するも株価は1.5%ダウンし1.3ポイント低下)

PBR・ROE・PER・純利益推移



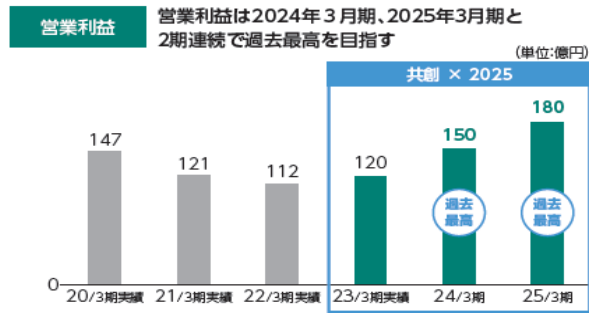
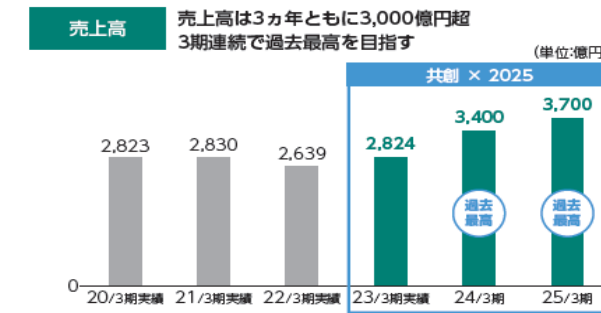
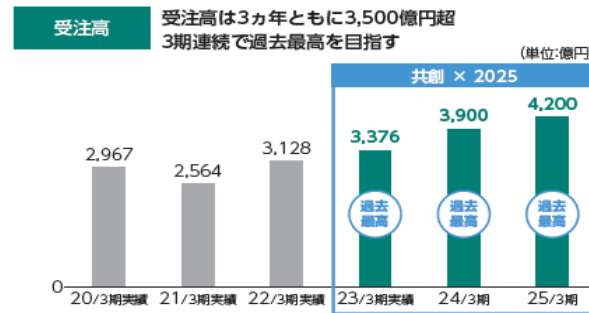
自己資本（比率）・D/Eレシオ推移



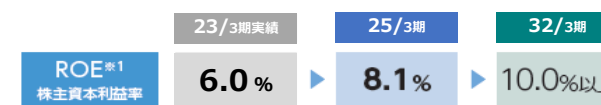
取り組み・目標数値

1. ROE向上策として、中期経営計画「共創×2025」の着実な遂行

● 中期経営計画における目標数値（受注高・売上高・営業利益・ROE）



ROE 中期経営計画最終年度にはROE8.1%を目指し、資本効率性の向上に努める。
長期目標は、ROE10.0%以上



※1 ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷(前期末株主資本+当期末株主資本)/2
株主資本=純資産-非支配株主持分

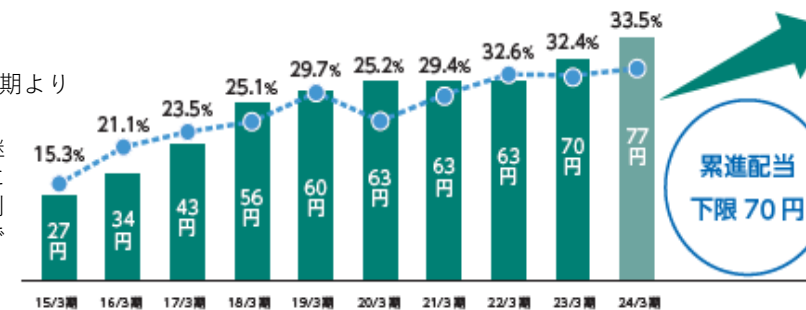
● 3カ年のキャッシュフロー配分ポリシーとして、3カ年キャッシュフロー270億円に、Debt400億円をプラスした合計670億円をタカマツハウスに300億円、事業投資に200億円、株主還元80億円、内部留保に90億円と配分する方針です。

● 事業投資は、戦略的M&A、川上(不動産開発投資)および川下(ストックビジネス)への参入等を計画しています。

2. 株主還元の一層の強化

● 2024年3月期の配当は、2023年3月期より7円の増配を見込んでいます。

● 中期経営計画期間は、累進配当を継続し、企業価値向上を目指して投資にもバランスよく資金を投じながら、利益成長に合わせた還元をはかる方針です。



3. PER向上策として、適切な財務情報、非財務情報の開示などIR活動を強化

- 成長投資についての取り組みが幅広く理解されるよう積極的な発信・IRを強化する方針です。
- 投資家とのコミュニケーションを強化していきます。

中期経営計画「共創×2025」

効率的な成長投資を続けることで持続的な市場価値の向上を目的として、2023年3月期を初年度とする3カ年の中期経営計画「共創×2025」を策定いたしました。

重点施策

- 「建設請負」を伸ばしつつ、より高い成長率で川上領域、川下領域に進出し、「建設請負」に偏っている重心を分散し、利益率の向上を追求
- トップクラスのホワイト企業への挑戦
- グループ経営基盤の確立
- 「ソリューション提供型企業への脱皮」「ストックビジネスの実現」に向けて3年間で200億円の事業投資・タカマツハウスで300億円の運転資金を投資
- 気候変動やカーボンニュートラルなどの課題に対応するための技術の追求
- 建設テック・ベンチャーへの投資や協業によるユニークな技術の導入
- 社会変化に即応した脱炭素社会に寄与する、社会インフラ維持に貢献する技術や長寿命化をはかる技術開発を推進
- グループ内の人材を適材適所に配置する